

idea

Vol.05

CONNECT × CONNECT

Twitter★http://twitter.com/#!/center_i

HP★<http://www.center-i.org>

いちのせき市民活動センターニュースター アイデア

NEWS LETTER IDEA

September

2012

いちのせき市民活動センター情報誌「idea」は、
NPO・行政・企業の情報発信により、アイデアと
出会いの機会を創ります。

いちのせき市民活動センター

〒021-0881 岩手県一関市大町4-29

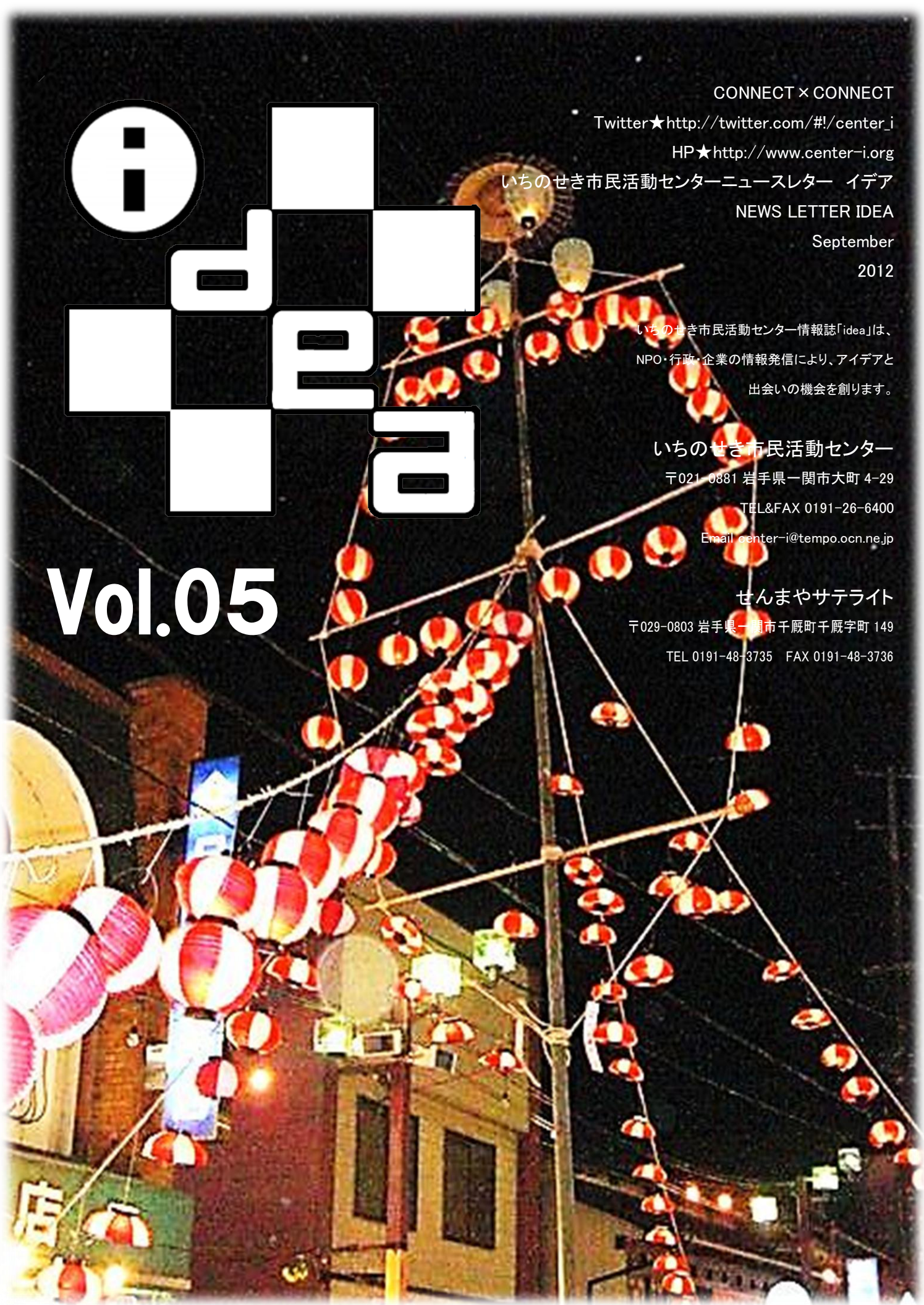
TEL&FAX 0191-26-6400

Email center-i@tempo.ocn.ne.jp

せんまやサテライト

〒029-0803 岩手県一関市千厩町千厩字町149

TEL 0191-48-3735 FAX 0191-48-3736



志民のための成長戦略④

会議ファシリテーション講座

—平成24年7月7日(土)—

7月7日の七夕の日に行われた「会議ファシリテーション講座」では、地域の方々とスタッフが参加し、地域づくりに欠かせない会議の「進め方」について学びました。

「ファシリテーション」とは、促進すること。話し合いの中心で、中立的な立場から、空間・時間・仲間の3つに関わり、プロセスを管理することで、納得度・満足度の高い話し合いをつくることを目的とします。今回は、会議を進めるにあたり必要な4つのスキルを、実践を通して学びます。

講師のいちのせき市民活動センター
副センター長 小野寺 浩樹



会議の流れとスキル

始めに、今まで体験した「良い会議」と「悪い会議」は、どんなものがあつただろうか？良い会議にするにはどうしたらよいかをみんなで考え共有。まず大事なことは、会議を始める前に「目的、目標、やり方とスケジュール・時間配分、メンバーと役割分担、ルール・方針」を決めておくこと。そうすることで、参加者の意識を合わせ、まとまりのある会議にすることができると。さらに「会議の流れは共有↓発散↓収束↓共有の繰り返しであること」を理解し、4人1組のグループに分かれて実践を開始。一人一人の役割分担を決めるのに、なかなか意見がまとまらず、四苦八苦していました。

会議を始めても、なかなか意見が出なかったり、逆に雑談ばかりで話がまとまらないことがあります。意見を話し

やすくするためには、どのような話の聞き方をすればよいのでしょうか？相手の気持ちを受け止め、引き出すコミュニケーションの手法として、「傾聴」があります。傾聴とは、相手の話を理解しようとして意識的に話を聴くこと。判断抜きで話を聞きながら「聴いてる」「シグナルを送り、さらに相手の表情やしぐさといった非言語の話も聞くことによって、相手に安心感と信頼を与え、相手の意見を聞きだしやすくすることができます。

「出された意見は、曖昧にせず明確にし、議論の全体像を紙に書きとめること」。こうすることで議論がわかりやすく内容を深めることができまう。議論がまとまった時、対立意見が出た場合は、「これでもよろしいですか。」「このやり方でもいいんですね。」と合意点を探っていく、対立の解消を行い、「合意形成」をしなければなりません。

七夕模擬会議

このことを踏まえて行った最後の実践では、「彦星と織姫は出会えるのか？」をテーマに「出会える」と「出会えない」の2つに分かれての会議に挑戦。「実は日頃から携帯電話で連絡を取り合っているのでは？」「愛し合っているから絶対に出会える！」などの意見が出て、おおいに盛り上がっていました。

参加者からは、「話を聴くということが、ファシリテーションにつながるということに驚きました。」「講座を通じて新しい人と出会えた。」「話し合いの中で、ファシリテーションがいかに重要かを知りました。とても勉強になりました。」「などの意見をいただきました。今回の講座で学んだ技術を、ぜひ日常生活や、地域づくりに生かしてほしいと思います。

2 | 志民のための成長戦略④ 「会議ファシリテーション講座」

4 | 地域コミュニティの活動紹介 大東町・下内野自治会

5 | 企業の地域づくり (株) ケーエムエフ

6 | 団体紹介 生涯支援センター日向ぼっこ

7 | 歩が行く-スタッフの体験レポート- 川っこ祭り

8 | 9月のイベント・ボランティア情報

一関市内の NPO 法人
市内 31 法人が活動中です。

- 1 藤沢町ボランティアピアセンター
- 2 北上川流域河川生態系保全協会
- 3 ケアセンターいこい
- 4 須川の自然を考える会
- 5 レスパイトハウス・ハンズ
- 6 一関文化会議所
- 7 一関ケアセンター
- 8 ワークハウス雲
- 9 里山自然学校 はずみの里
- 10 全国地域学習振興会
- 11 北上川サポート協会
- 12 グリーンハート
- 13 いわい地域支援センター
- 14 アートで明るく生きるかわさき
- 15 障害者への偏見と差別をなくす会
- 16 サン・スマイル
- 17 ねこの手クラブ
- 18 いわてコミュニティファンド
- 19 千厩まちかどケアセンター
- 20 いわて発達障害サポートセンターええ町づくり隊
- 21 いちのせき子育てネット
- 22 響生
- 23 わかば会
- 24 防災サポートいちのせき
- 25 とーばんふうどくらぶ
- 26 生涯支援センター岩手 日向ぼっこ
- 27 あゆみ
- 28 子育て支援いっすね
- 29 ファンスポルト一関
- 30 北上川流域連携交流会
- 31 グローバルヒューマン
(認証順で掲載しています)



9月の表紙

「燈立」(あかりだて)
千厩地方に古くから伝わる盆中
行事で、竹竿の上に唐傘をくくり
つけ、四方に貼った縄に紅白の提
灯をつるして故人の冥福を祈り
ます。

いちのせき市民活動センターニュースレターideaは、
市民活動がアイデアを持ってNPOと行政や企業、市
民との出会いの機会を創りだすことを目的とした情報
誌です。センター情報をはじめ管内の市民活動団体
情報や行政情報をお届けします。

地域コミュニティの活動紹介

大東・下内野自治会

—結の精神で地域づくり—

自治会長 勝部欣一 氏
事務局長 小山隆人 氏

下内野自治会は、39戸122人が暮らす中山間地帯で、清流「砂鉄川」の上流に位置し、過疎化と高齢化の渦中にあるながらも住民が一丸となって地域づくりを行なっています。

平成元年に同自治会を設立し「結の精神」に基づいて、自治会役員と地域住民が力を合わせ、地域づくり活動を展開している。パワフルな自治会長の勝部欣一さんと、事務局長の小山隆人さんに様々なお話を伺って来ました。

一致団結4WD計画

旧大東町が平成9年に創設した「ふるさとづくり支援事業」のモデル自治会第1号指定を機に、地域づくりを再構築し、清らかな水を基調とした自然環境の創造を推進するため「下内野4WD

計画」を策定した同自治会。「4WD計画」とは、4輪駆動の軽トラックをイメージ。タイヤ部分は前輪が、定住人口の倍增▽交流の拡大、後輪が、住環境の充実▽産業の振興と、それぞれテーマが掲げられ、ドライバ―は自治会員・助手席が明日を担う青少年とし荷台には、目的へ向けての夢が満載。また、4人若男男女・Miss Master・Dill Dreamと言葉の意味合いもユニークです。この4WD計画に基づき、さまざまな事業を展開しています。

石磨き大会

河川環境の大切さを学び、水質保全に対する住民意識の高揚を図るための活動として平成6年から開催された「石磨き大会」。開催当初から指導頂いた日本大学河野教授をはじめ学生との交流も継続され、今年で19回目を迎えました。石磨きとは、「古縄たわし」を使用。川の石についた有機物を除去し、石の下に酸素を送り込むことで川の清流化に繋がりが、水資源に対する意識啓発や向上に大きく寄与しています。今年8月に開催された「石磨き大会」には、日本大学の教授・生徒、地域住民・地元の小中学生など120名の参加で川に親しみながら、「かじか」が棲める清流の保全に取

り組みました。また、日本大学との交流では、「田舎教授」として同自治会員を大学へ派遣し講師を務める事業も展開。田舎の良さをアピールする田舎教授も板に付いてきたと好評なのだそうです。

地域づくりのパートナー

地域づくりの仲間として定住者を受け入れようという「全世帯宅地分譲」事業は、自治会員がそれぞれ未使用の農地を出しあい、1区画1000平方メートルを基本とした散居型による農地の現状分譲です。現在4世帯が定住し、同自治会の会員となり地域づくりのパートナーに加わりました。定住者は思い思いの場所に家を建て野菜などを栽培し田舎暮らしを満喫しているということですが。しかし、「定住者なら誰でも」ということではなく、「定住住民審査制度」という制度を自治会で創設。「豊かな自然環境に価値観を共有できる」と自治会員が認めた人にだけ住んでもらおうとするものとのことで、地域づくりへの熱い思いが強く感じられました。

夢はモツ会から

さまざまな活動の拠点とも言える、居酒屋「モツ」は同自治会のふれあい会館敷地内にあり会員制で運営され、毎月1

日に月例会を開催し「モツを食べ、飲みながら腹を割って語り合う場」です。35年も続く月例会はいつの時代もここで、地域の将来像を語り、一歩一歩前進させていったのです。

「地域づくりは、一人ではできない。10年、20年先の地域の在り方をみんなが話し合い、一歩一歩前進させていくのが地域づくり。」と語る事務局長の小山さん。今後も、石磨き大会の開催や中国との国際交流の他、田植え踊り伝承保存事業、農作業受委託組合の運営など継続的に取り組み、「下内野4WD計画」に計上されている「あなたのそば屋」運営事業、中国の薬草栽培等にも取り組むとのこと。 「地域づくりに終わりはない」と、新たな地域計画づくりに今後とも挑戦していく力強さが伝わりました。また、自治会長自身が作成しているホームページでは、随時、自治会活動の様子が更新され、情報発信を行なっています。



自治会長 勝部欣一 氏 (右側)
事務局長 小山隆人 氏 (左側)

企業の 地域づくり

～環境美化活動で地域づくり～

(株) ケーエムエフ 花泉工場
工場長 増子 修一氏
事務課主任 小野寺 伸子氏



今回の、企業の地域づくり取材は、花壇を通じて地域とのふれあいを行っている一関市花泉町の(株)ケーエフエム花泉工場へお邪魔し、工場長の増子修一さん、事務課主任の小野寺伸子さんにお話しを伺いました。

活動のきっかけは、 小さな花壇から

広い敷地内に、青々とした芝生。

綺麗に剪定された植木の下には、「がんばろう！岩手」のメッセージと共に、色鮮やかな花が花壇を飾っている。(株)ケーエフエムは、コンクリート製品用鋼製型枠の製造・販売事業を行っています。昭和61年に創業して以来、敷地内の環境整備にも力を入れました。

「いつでも、誰でも気軽に来られるような工場にしたい。」そう語るのは、工場長の増子修一さん。今では、整備が行き届いた美しい庭ですが、始まりは小さな花壇からでした。花泉町は地名の頭文字である「花」に対する環境美化活動が活発で、昔から「花いっぱいコンクール」を毎年開催したり、苗を無償で配布したりなど、地域全体が一丸となって環

境整備に取り組んできました。

(株)ケーエムエフは昭和61年の花いっぱい運動の参加を始め、現在に至るまで毎年各コンクールに参加、数々の賞を受賞。年々緑地を広げるとともに、コンクールの受賞範囲を岩手、全国と広がっていき、平成24年4月には永田町にある憲政記念館で、天皇后ご臨席のもと、野田総理大臣より「緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

地域の人達が集う場所に

花壇を広めるきっかけとなったのは、昭和61年の花いっぱいコンクールでの受賞の他、初代社長である小島さんの「花壇と緑地を増やしたい」という強い意志が、深く関係しています。平成4年に増築した土地も含め、敷地内の整備は全て会社で働く職員が就業後に自己啓発で行っており、花壇の手入れは社員が班編成で行い、2週間に1度は草刈をする他、

月2回道路のゴミ拾いも実地。社員全員が一丸となって環境整備に努めています。

会社には県内外から見学者が訪れ

ます。また20年以上も続く、矢ノ目部落との合同夏祭りでの盆踊りの場所にも提供したり、企業連絡協議会という、花泉町内の企業24社が集まって行われる健康ウォーキング大会では、毎回工場が中間ポイントになっており、そこで一般の参加者に無料で球根を配布したところ、大人気だったそうです。冬は庭園をイルミネーションで飾り、国道を通行する人達の目を楽しませています。こうした活動を通して、地域の人達が集う交流の場所としても親しまれています。

年間にわたり様々な花や緑で私達の目を楽しませてくれる(株)ケーエムエフ。「今後も現状維持に力を入れていきます。いつでも工場の見学に来てください！」と笑顔で話してくれました。



生涯支援センター日向ぼっこ

団体紹介

～基本情報～

◆代表：千葉育子 様

◆法人認定日：平成 23 年 10 月 5 日

◆事業所

〒021-0893 岩手県一関市地主町 4-9

TEL：0191-48-3493

FAX：0191-48-3494



千葉 育子 様

いつも太陽を向いている向日葵のように、
みんなで明るく元気に生活をするための支援を。

日向ぼっことは

生涯支援センター日向ぼっこは、障害をもっている人々や高齢者等が支え合いながら一般住宅で共同生活をするにより、地域社会において共生、自立した生活を営むことができるように支援することを目的として活動している団体です。

代表の千葉さんは、平成 23 年の 9 月まで陸前高田市に住み、4 年半の間障がいをもつ子ども達の生活支援を行う仕事をしていましたが、勤めていた施設 6 か所が全て津波により流されてしまいました。その後陸前高田市で活動を再開しようと試みたが、なかなか新しい施設を建てるための建設資材が集まらず、生活環境が整ったまちの中で生活してもらいたいという思いもあり、隣接する一関市での活動を決意。平成 23 年 10 月に一関市から NPO 法人の

認定を受けました。

ケアホーム 「ひまわり」

「障害をもつ人も健常者と同じように、のびのびと自分がしたいことをする生活をしてほしい。」そう語る千葉さんは、現在一関市舞川堀切にケアホームを建設する計画を進めています。

東京にある医療福祉機構に融資の申し込みをし、内定が決まりました。工事の着工に取り掛かる予定。建設する場所について堀切の地主さんに相談すると 400 坪もの広い土地の賃貸を快く承諾してもらいました。

広い施設内には最大 20 人が入居できる部屋を用意し、利用者の家族も寝泊りできるよう一部屋 10 ～ 14 畳の広いスペースを設定。各部屋には洗面台やトイレ、テレビ等を設置する予定です。

「地域の方々を大切にしていきたい。いろんな形で

交流を深めていきたいと思っています。」と千葉さん。現在考えている利用者の仕事は、大きな生ゴミ処理を施設に導引し、地域から出た生ゴミを回収し肥料に変え地域に還元すること、畑を作り地域の人と一緒に作物を育てること、みんなで明るく元気に楽しく生活をしたくと考えています。

「ゆくゆくは、高齢者介護や子ども擁護施設も作り、同じ施設という枠の中で、みんなで一緒にテーブルを囲みご飯を食べ、交流ができるようにしたい」と話しています。

千葉さんは、「今だ障害をもっている方を偏見の目で見ている人が多いです。障害をもっている人には素直な方が多いので、思ったことを、ぽんと言ったことがあるが、それを否定せずフツと受けいれ、温かい目で見てほしい。」と笑顔で語ってくれました。

歩が行く

センタースタッフの千葉歩の体験レポートです。

今月は、NPO法人 北上川サポート協会主催の「川っこ祭り」に行ってきた。

NPO法人 北上川サポート協会は北上川の河川空間を利用する全ての住民に対し、河川空間の積極的な活用と創造に関する事業を行い、地域の交流と連携及び地域の活性化に寄与することを目的として平成16年に設立、自然学習活動や環境保全活動などのほか、子どもから大人まで楽しめるイベントや活動を行なっております。今回の「川っこ祭り」は一関市の元気な地域づくり事業で選考され実施が決定したとのことで、普段体験できない、川と親しむことにより、「川を大切にできる心」を育てる事を目的として開催されました。

川っこ祭り、雄大な自然を
まるっと満喫！

一関市川崎の川崎防災センターを会場に開催された「川っこ祭り」。気温33度の真夏日の中、来場者は約200人。川のイベントでは長生丸遊覧、水上バイク体験、カヌー体験、人間カールリング「タライでトライ！」など、普段体験できないことばかり、陸のイベントでは、川を眺めながらコーヒタイムが出る川カフェのほか、川辺の音楽会▽川の絵展示などゆっくりくつろげる内容で、本当に楽しい一日でした。



長生丸遊覧体験

長生丸はエンジン付きの木船で、普段、間近で見ることのない北上川を船に乗って探索。受付を済ませ、ライフジャケットを着用しました。私も娘たちもはじめてのことでドキドキです。船に乗り込む時。ゆらゆ

らして、少し怖かったです。

暑さや日差しも、船の流れで風が吹き、川に癒され涼しさを感じました。自然の大切さ、怖さ、偉大さがずっしり伝わってきます。約30分北上川を探検しました。目立つゴミはなく、日頃の環境整備をしっかりとしていることがよくわかります。

川から見上げる北上大橋。車で通る時の印象とは全く違う貫禄です。こんなに大きかったのですね・・・。



遊覧の後は、川カフェにてアイスコヒーをいただきました。冷たくてホッと一息ティータイムでした。

北上川の歴史

穏やかな流れの北上川。かつて、台風被害にあい、この川も氾濫。大きな被害をもたらした記憶を忘れないようにと、川崎防災センターでは、写真のように防波堤には過去の台風によって増水した川の水位を記録し

ています。娘が小さく見えます。



美味しい香りにつられて・・・

川崎赤十字奉仕団のお母さま方による炊き出しを発見！とっても優しい味のカレーです。暑さに負けない熱いカレーは、私のお腹を満腹にさせていただきました。ごちそうさまでした。



今度こそ挑戦するぞ!!

景品も魅力的だった「タライでトライ」・・・今回は時間がなく出来ませんでした。人間カールリング「タライでトライ」にぜひ挑戦したいです。



イベント・ボランティア情報



いちのせき市民活動センターでは、一関市内で活動する市民活動団体や企業で行うイベントの情報やボランティア募集の情報をお待ちしております。

TEL & FAX 0191-26-6400 ☒ center-i@tempo.ocn.ne.jp



防災講演会

9月1日の防災の日に、防災講演会を開催します。内容は、元釜石大槌地区行政事務組合消防本部 消防長 雁部良三様による「東日本大震災を経験して」、気仙沼市松岩公民館 館長 齋藤文良様による「住民が支える公民館避難所震災で発揮された住民参加の力」です。

日時：平成24年9月1日（土）

13:15～16:00

場所：東山地域交流センターホール

定員：300名（入場無料）

申込：必要 一関市消防本部防災課（Tel.25-5913）まで

主催：一関市・NPO法人防災サポート いちのせき



ダンスパフォーマンス

コスモス舞踊研究所では、青少年の情操性豊かな人間形成と、成人の美容・健康の増進を目的に、舞台表現を通して地域文化向上の活動をしています。一関市出身のダンサーSHUHOさんをゲストにお招きし、ダンスパフォーマンスを開催します。

日時：平成24年9月9日（日）

時間：開場 13:30 開演 14:00

場所：藤沢町縄文ホール

料金：1000円

電話：0191-21-3337

担当：コスモス舞踊研究所



リレー・フォー・ライフ 2012In いわて

リレー・フォー・ライフとは、「がんに負けない社会」を実現するためにがん患者さんとその支援者を応援するための募金活動を行うチャリティーイベントです。収益金は日本対がん協会に寄付され、がん患者支援活動に役立てられます。

日時：9月15日（土）12時開幕～

9月16日（日）12時閉幕

場所：観自在王院跡（毛超寺隣り）

電話：0191-23-2050

E-mail：rfliwate@gmail.com

主催：財団法人 日本対がん協会／リレー・フォー・ライフいわて実行委員会



一関子ども劇場

「子どもに夢を…！たくましく、豊かな創造性を！いきいきワクワク体験を、親子で一緒に楽しみましょう！」をモットーに、例会を開催します。第82回は「チカパンのいっしょにパントTIME！」を上映予定です。

日時：平成24年9月29日（水）

18時～19時30分

場所：中里公民館（予定）

電話：0191-25-6160

料金：無料

申込：必要

持物：特になし

担当：一関子ども劇場／野沢



花泉元気市

一関市では、市民との協働による地域づくりの一環として、地域を元気にしようとする「いちのせき元気な地域づくり事業」の「第三回花泉元気市」を開催します。花泉地域で収穫された野菜や果物などの農産物直売、手工芸品や過程で眠っている衣類・アクセサリ・生活雑貨などのフリーマーケットや楽しいイベントが盛りだくさんです。

日時：平成24年9月22日（土）

9:30～15:00

場所：花と泉の公園

（小雨決行／雨天中止）

主催：一関市



さくらなみきオープン

NPO法人レスパイトハウス・ハンズでは、8月3日より「Café&Gallery さくらなみき」をオープンしております。道路に面した2階は、誰もが立ち寄れるカフェとしてパンやコーヒーおよびアイスクリーム等の軽食を提供し、9月9日からは1階を自閉症美術館としてギャラリーの機能ももたせませす。

場所：一関市中央町1-1-4

電話：0191-48-3622

FAX：0191-48-3623

通常営業時間：10:00～18:00

休業日：日曜日、祝日

いちのせき市民フェスタを開催します！！

平成24年9月9日（日）午前10時より、一ノ関駅東口交流センターにて、いちのせき市民フェスタ12を開催します。一関市内で活動するNPO法人の活動内容の展示・体験コーナーや、ステージでは、マジック、日本舞踊およびマーチング等発表の他、おいしい食べ物も多数取り揃えております。全国地域事例トレーディングパークでは、全国で地域づくりに取り組む団体の先進事例発表、沿岸の若手企業家による復興に向けた活動の発表があります。いちのせきフェスタに来て、地域で活躍する団体を見て！聴いて！感じて！そしてファンになりましょう！

